

[カンショ]

1. 作付の概況

2013年度の全国の作付面積は38,600ha、このうち九州は19,300ha、沖縄は252haであった。前年度に比べ、全国では200haの減、九州では100haの増であった。九州・沖縄においては、前年度比で減少あるいは横ばいの県が多いが、特に宮崎県での作付面積増が特徴的であり(240ha増、前年比108%)増加面積、増加比率とも全国で首位であったほか、大分県でも前年度比105%となった。これは全国的に農家の高齢化に伴う労働力不足等により作付けが減少する中で、宮崎県で焼酎用、大分県で食用の需要が増えたことによる。全国の10a当たり収量は2,440kgで、前年産との対比で8%上回った。収穫量は942,300tで、前年産に比べて66,400t増加した(同8%増)。これは九州地域、特に南九州地域において天候に恵まれ、生育がおおむね良好となり単収が上がり、収穫量が増えたためである。

2. 作柄の概況

鹿児島県では、生育初期(4~5月)の平均気温は平年よりやや低かったが、7,8月はやや高かった。生育期間を通じた平均気温は平年並みであった。降水量は、6月が平年より多かったが、7~9月はやや少なく、生育期間を通じた降水量は平年対比87であった。日照時間は生育期間を通じて多かった。このため、全体的に地上部の生育やいもの肥大はよかった。マルチ標準掘、無マルチ栽培とも、収量は平年よりやや高かった。本年の鹿児島県の10a当たり収量は2,730kgで、前年産を18%上回った。また、収穫量は374,000tで、前年に比べて53,800t(17%)上回った。

宮崎県では、生育期間を通じて平均気温はやや高めに推移し、降水量は少なかった。6月の降水量は平年より多かったが、7~8月にかけては降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。このため、地上部の生育やいもの肥大はよかった。原料用カンショの早掘栽培や標準栽培、長期マルチ栽培、青果用黒マルチ栽培では、上いもの着生数が多く、多収となった。晩植栽培では平年並の収量になった。宮崎県の10a当たり収量は2,730kgで、前年産を11%上回った。収穫量は93,900tで、前年に比べて15,500t(20%)増加した。

(九州沖縄農業研究センター畑作研究領域 高畑 康浩)

2013年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較					
				作付面積		10a当たり 収量		収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比	
(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)		
全国	38,600	2,440	942,300	△ 200	99	108	66,400	108	
九州	19,300	-	-	100	101	-	-	-	
福岡	154	-	-	△ 2	99	-	-	-	
佐賀	101	-	-	△ 5	95	-	-	-	
長崎	412	-	-	△ 10	98	-	-	-	
熊本	1,140	2,230	25,400	△ 30	97	101	△ 300	99	
大分	346	-	-	18	105	-	-	-	
宮崎	3,440	2,730	93,900	240	108	111	15,500	120	
鹿児島	13,700	2,730	374,000	△ 100	99	118	53,800	117	
沖縄	252	-	-	0	100	-	-	-	

注)平成25年産かんしょの作付面積及び収穫量(農林水産省大臣官房統計部 平成26年2月4日公表)に基づいて作成